

目次

- ・ 座談会.....「小松学長と学生の座談会レポート」 (1)
- ・ センターニュース...「第6回愛媛大学全学シンポジウム開催」 (4)
- ・ 授業に役立つ工具箱「参加型授業を作りたい方へ」 (5)
- ・ 授業のティップス.....「TAを効果的に活用するには…」 (6)
- ・ センター運営委員会の動き..... (7)
- ・ センター掲示板..... (8)
- ・ センター日誌..... (8)

座談会

小松学長と学生の座談会レポート

学長と学生の座談会の様子

2004年2月19日、学長室において、「小松学長と学生の座談会」が実施されました。昨年は学長選挙のため休止されており、二年ぶり二回目となる企画です。学長が学生の生の声を聞く場として開催されています。今回は、大学教育総合センターに設置された学生モニターとの座談会でしたが、今回は、日ごろから、大学のために活動しているスチューデント・キャンパス・ボランティアの13名の学生が出席しました。また前川副学長、田村事務局長も同席しました。最初に自己紹介があった後、午前中に行われたワークショップでの成果を持ち寄り、「愛媛大学の良い点」「提言」を発表しました。提言は「広報体制の充実」「就職支援の充実」「障害学生受け入れ体制の整備とユニバーサルデザイン化の推進」等の8つで、それぞれに具体案が出されました。それらは要望にとどまらず、「自ら活動するので支援してほしい」というものが多く実現性の高いものとなりました。とりわけ「地域公共施設との協働」は学長も高く評価しました。学長は「法人化で予算状況が厳しい中ではあるが、指摘された点を改善できるよう努力したい」と、今後の大学運営の参考にすると述べました。参加した学生は「貴重な機会を設けて下さ



り感謝しています。とてもいい経験になりました」と述べていました。

以下に、「愛媛大学の良い点」「提言」の全文を掲載しています。

愛媛大学の良いところ

- ・ 授業アンケートの実施による学生の意見表明の場の提供
- ・ 接しやすい教職員
- ・ ネイティブの教員による英語の授業
- ・ スチューデント・キャンパス・ボランティア制度
- ・ 構内にいる動物への配慮
- ・ 美しい学生食堂
- ・ 便利な立地条件（都心にある）

- ・熱心な教員による講義
- ・わかりやすいホームページ
- ・構内全面禁煙 ・ごみ分別の徹底
- ・新しいことがしやすい雰囲気
- ・緑が多いキャンパス
- ・キャンパスが集約しており、移動がしやすい。



提言1 教育の更なる充実

提案

- ①総合大学を活かして、幅広い学問分野の教員の確保
- ②不本意入学生に向けたやる気を持たせるプログラムの開発（自分史を作成させる等）
- ③英語教育の改革（日本語を話せるネイティブ、日本人講師の採用。TOEICの使用。現在の学生のレベルにあった内容に。）
- ④第二外国語の充実（アジア系の言語）

提言2 施設・設備の充実

現在の問題点

- ①構内の駐車・駐輪のひどい状況
（景観の悪さ、障害学生が通りにくい状況、受験生にも悪影響）
- ②施設内のトイレや教室の冷暖房の不備
（建物に男子トイレが一つなどジェンダー・バランスの悪さ、学部によって冷暖房の設置状況が異なる）

提案

- ①駐車：駐車場の拡大、公共交通機関の使用の義務付け、駐車場使用制限の徹底
- ②駐輪：学生のマナー対策、駐輪場の集中化（1箇所～4箇所程度）、放置自転車の処分
- ③施設・設備の学部間格差の解消、トイレのユニバーサルデザイン化、教室の加湿対策

提言3 広報(情報提供・発信システム)の充実

現在の問題点

愛媛大学の知名度が低い

（素晴らしい研究や教育が実施されているにも関わらず、全ての活動の土台となり得る広報宣伝にあまり力を入れていないのではないか？）

提案

- ①学務部だよりのリニューアル(デザインの一新、学生の関与)
- ②ポスター等を使って、大学内外に情報の発信を。
- ③ホームページ上で、学生の活動、大学の研究、メディアでの紹介を目立たせては。
- ④留学生向けに、英語や中国語、韓国語などで国際的に発信。

提言4 国際交流の充実

現在の問題点

- ①留学生と日本人学生の交流する機会が少ない。
- ②日本人学生が留学しにくい。
- ③留学生の出身国に偏りがある。
- ④学生さんはお金がない。

提案

- ①学生の国際交流活動（チャットルーム、留学生だよ全員集合、国際交流コーディネーター）への大学としての広報や財政面での支援。
- ②姉妹校提携の増加と充実
- ③世界へ向けて愛大の良さをPRする
- ④意識の高い学生に財政的支援をし、留学経験を提供。

提言5 地域の公共施設との協働

現在の問題点

大学周辺には、教育上学生にとって、重要度の高い公共施設が多いにも関わらず、利用されていない。例えば下記のような施設がある。

- ・愛媛県NPO支援センター
- ・松山市総合福祉センター
- ・コムズ（松山市男女共同参画推進センター）
- ・E P I C（愛媛県国際交流センター）
- ・松山市ボランティアセンター

提案

- ①授業の中で、これらの施設と学生が交流できる内容を積極的に取り入れる。
- ②大学とこれらの施設が共同で地域に発信できるイベントの開催。
- ③学生が講習会やイベントに参加する場合の財政的支援
- ④地域公共施設利用マニュアルの配布(入学式等)

提言6 障害学生の受け入れ体制の整備とユニバーサルデザイン化の推進**現在の問題点**

- ①講義保障
- ②障害学生支援コーディネーターの苦労と後継者確保の困難
- ③ノートテイク等の人材養成制度の未整備
- ④設備の不備
- ⑤教員・学生の無理解(手話やノートテイクをしていると、教員や学生から怪訝な顔で見られる)

提案

- ①ノートテイクの確実な配置
- ②ボランティアと利用学生を結びつける部屋の設置
- ③ノートテイク養成講座の充実
- ④施設・設備のユニバーサルデザイン化
(車椅子の通れる道路の整備、スロープの整備、車椅子用トイレの整備)
- ⑤交流の場の設定(意見交換会など)

提言7 就職支援の充実**現在の問題点**

- ①就職情報の提供が少ない
- ②相談しにくい
- ③似たようなガイダンスが多く、あまり役立たない
- ④学部と全学の就職指導室が分離されており、迷う。

提案

- ①資格取得の支援(公務員講座などの充実)
- ②学内でビジネス実務系の様々な講座の開設(マナー講座や化粧の仕方講座など)
- ③総合的な相談室(全学の就職指導室と学部の就職相談との連携)
- ④早期から企業を招いた合同説明会の開催
- ⑤内定者へのフォロー(進路多様化の中での就職決定ブルーへの対応)

提言8 文系学部・センターの充実**現在の問題点**

大学は理系学部・センターに力を入れている気がするが、文系は活力がない。

提案

- ①出来てほしい研究センター
 - ・ヨーロッパ文化研究センター(政治研究も含む)
 - ・アジア文化研究センター
 - ・比較文学研究センター
 - ・人間心理研究センター
 - ・哲学・思想研究センター
 - ・社会科学研究センター
 - ・人間教育研究センター
- ②メリット
 - ・興味のある分野を、深く幅広く研究しやすくなる。
 - ・グローバルな視点を養える。
 - ・愛媛大学へ、研究者の目が向く。
 - ・愛媛大学へ来たいと思う学生が増加する。
 - ・人間的に深い人生を送れるようになる。

参加学生

<ESMO(愛媛大学学生メンターズ)>

- ・戸成晃子(法文学部4回生)
- ・島本瞳(法文学部3回生)
- ・大藤薫(法文学部3回生) ※WSのみ参加、座談会は欠席
- ・白石昌弘(法文学部2回生)

<ESMO・火曜ナイトサロン実行委員会>

- ・宗田正臣(法文学部2回生)
- ・山崎政博(理学部2回生)
- ・浅木志保(法文学部2回生)
- ・増本ちほ(農学部1回生)

<AIVO(愛大ボランティアおーがにぜーしょん)>

- ・河野敏嗣(理学部4回生)
- ・福山尚(法文学部2回生)
- ・浅木志保(法文学部2回生)

<国際交流コーディネーター>

- ・宗田正臣(法文学部2回生)
- ・山崎政博(理学部2回生)
- ・浜本健介(法文学部1回生)
- ・濱田武範(法文学部1回生)
- ・多胡良介(農学部2回生) ※WSのみ参加、座談会は欠席

<障害学生支援コーディネーター>

- ・天津裕子(教育学部4回生)
- ・北村愛(教育学部4回生)

企画・資料作成

大学教育総合センター 教育システム開発部
佐藤 浩章 (教育・学習支援担当)

学務部教務課

一柳 元成 (教務課長) 猿渡 仁 (教務課長補佐)

センターニュース

第6回愛媛大学全学シンポジウム 「自ら学ぶ学生を育てる」開催される

大学教育総合センターの主催により、第6回愛媛大学全学シンポジウム「教育実践シンポジウム」が今年も開催されました。

今回の統一テーマは「自ら学ぶ学生を育てる」でした。このテーマは現在検討中の新共通教育カリキュラムのキーワードです。今回はむしろ専門教育における教育実践報告でしたが、自ら学ぶ学生を育てることが今日の大学教育の要であることが、改めて浮き彫りにされたシンポジウムでした。以下にそのプログラムを掲載します。

日時 / 平成15年12月4日(木) 13:00~17:00

会場 / 愛媛大学共通教育講義棟講24教室(2階)

学長挨拶

セッション1 座長 和多田 正義

(1) 松本 朗 (法文学部)

「実践，体験型教育の全学的展開の提案」
—フィールドワーク，インターンシップの経験と教訓—

(2) 田邊 勝利 (教育学部)

「身近な環境調査を通して自ら学ぶ授業」
—教育学部のゴミ分別実態調査の実践例—

(3) 中島 敏幸 (理学部)

「そうではない」から始めてみる
—「生態学特論」の実践—

(4) 大西 美智恵 (医学部)

「エスノグラフィ的接近を用いた地域看護学
実習の展開」～地域住民の生き生きとした暮らしを知るために～

セッション2 座長 寺下 太郎

(5) 齋藤 正一郎 (医学部)

「学生が学生から学ぶ実習：学生同士による採
点評価と上級生による学生TA」

(6) 小林 真也 (工学部)

「情報科学S」の(1+2)年間

(7) 小林 修 (農学部)

「大学生による演習林を利用した野外体験活動
の実践と効果」

(8) 杉森 正敏 (農学部)

「新カリキュラム・森林科学I~Vの実践過程」

全体討論

大学教育総合センター長総括

17:00 終了

主題別科目の多様化に向けた意見交換会

大学教育総合センターでは昨年7月より、主題別科目の多様化に向けた授業の新規開設に取り組んできました。このほど16年度共通教育授業計画が成案を得たのに伴い、同授業の担当教員も確定しました。同授業の立案にあたった共通教育企画・実施部では、同授業の趣旨を共有するため、1月7日(水)、授業担当予定者と企画委員会の意見交換会を開催しました。当日の参加者は19名でしたが、非常に活発な意見の交換がなされました。本学の主題別科目に関しては、これまで授業担当教員の相互意見交流が行われたことがなかったのですが、教育の質的向上のためにはこの種の話し合いは不可欠です。企画委員会としては、今回の試みをきっかけとして、授業担当教員による話し合いの機会を様々な形で企画していきたいと考えております。

法人化へ向けたFD・SDセミナー開催中

本年4月に国立大学法人愛媛大学が発足しますが、これを本学の飛躍の機会とするためには、教員と職員がこれまでとは異なった発想で業務に当たることが不可欠です。そうした本学構成員の意識改革を目的として、大学教育総合センターと法人化準備実施本部事務室の共同主催により、一連の講演会が開かれています。日程的にかなり短い間隔で実施されているにもかかわらず、いずれの講演も熱心な参加者による熱気に包まれています。下記に2月以降の日程を掲載します。

- ★1月9日(金)15:00～ 事務局第5会議室
 演題 『長崎大学における教員の個人評価の実施と課題』
 講師 長崎大学 教育学部長 橋本 健夫氏
- ★1月23日(金)15:00～ 事務局第5会議室
 演題 『職業生活の設計と就職指導・支援の新たな展開』
 講師 立命館大学 キャリアセンター就職部長 (産業社会学部教授) 林 堅太郎氏
- ★1月30日(金)15:00～ 事務局第5会議室
 演題 『施設設備のファシリティマネジメント』
 講師 北海道大学 施設部企画課長 藤村 達雄氏

- ★2月6日(金)15:00～ 事務局第5会議室
 演題 『新しい時代の教養教育を考える』
 講師 金沢大学 工学部教授 田中 一郎氏
- ★2月27日(金)15:00～ 事務局第5会議室
 演題 『若者の自主性や創造性を育てるために一和歌山大学学生自主創造科学センターの取り組み』
 講師 和歌山大学 学生自主創造科学センター長 (システム工学部教授) 森本 吉春氏
- ★3月9日(火)15:00～ 共通教育会議室
 演題 『教育改革～カリキュラムとセメスター制について』
 講師 新潟大学 人文学部教授 小林 昌二氏
- ★3月19日(金)15:00～ 事務局第5会議室
 演題 『山口大学学生支援センターの取り組み』
 講師 山口大学学生支援センター長 松富直利氏
 山口大学学生支援センター 平尾元彦氏

シリーズ 授業に役立つ工具箱(7)

参加型授業を作りたい方へ
廣瀬隆人ら『生涯学習支援のための
参加型学習(ワークショップ)のすすめ方』
 (ぎょうせい ¥1,429 2000年)



今回紹介するのは、最近、よく聞くワークショップの手法をわかりやすく説明した『生涯学習支援のための参加型学習(ワークショップ)のすすめ方』です。FDでは、従来の講義を中心とした授業に加え、フィールドワークやディベート、ディスカッション等、教育技法を豊富にすることが推奨され、教育目的に応じて、これらを使い分ける必要があると主張されます。ワークショップとは、小グループで意見

交換や共同作業を行いながらすすめる技法です。課題発見、課題解決、共同作業を目的とした授業に向きます。学校教育の授業だけではなく、社会教育やNPO、職場研修の場で良く使われる手法です。本書では、第II章で「参加型学習の20の手法」と題して、ワークショップの中心となるファシリテーターの役割、注意事項などについてのノウハウが書かれています。KJ法やブレインストーミング、ロールプレイやシミュレーションの具体例が紹介されています。

また第I章では、「学習プログラムのデザイン」と題して、こうした参加型学習をどのように作り上げていくかという構想方法についても書かれています。

冒頭でワークショップという言葉に「最近、よく聞く」と書きましたが、本書を読めば、それが一時の流行ではないことがわかります。ワークショップは、戦後日本に民主的な新しい教育を徹底させることを目的として文部省と占領軍総司令部民間情報教育局により開催された教育指導者講習会の場で初めて日本に紹介されたという思わぬ発見もあります。

▼ 大学教員が授業をする上で役立つ書籍、WEB情報を紹介します。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡下さい。

「TA を効果的に活用するには…」

Q.化学の実験を担当しています。TAを頼んでいるのですが、役割分担があまりうまくいっていない気がします。どのようなことをしてもらおうと良いのでしょうか？



「教育スタッフとしての自覚を」

A.米国の大学では、TA に対する研修がしっかりと実施されています。教育スタッフとして、TA を位置づけているからです。一方日本では、大学院生の生活補助的なイメージがあり、きちんとした研修もないまま授業の補助に入ることも多くあります。受講している学生に対して、教育スタッフとして接してもらおうことで、あなたの授業の質を向上させることができます。最近国内の大学でも TA 研修を始めるところが出てきました。本学でも 4 月に、初めての TA 研修会を予定しています。

[学期が始まる前に、TA との会議を開催する] 授業の目的、評価方法、受講のルールについて確認をします。あなたが、TA を新任の教員としてみなし教育すること、役割、留意点を伝えます。普段同じ研究室にいる院生だと、どうしても学生として扱ってしまいがちですが、ここは一線を画す気持ちで話します。とりわけ、TA の経験が将来、大学教員になろうともならなくても、社会人として役立つ経験であることを伝えましょう。

[TA の紹介を学生にきちんと行う]

TA の名前、専門、出身高校などを学生に伝えます。自己紹介でも良いでしょう。その際、学生には TA は教員スタッフであることを伝えます。TA に注意された時に、反発させないための工夫です。

[授業終了後に時々話し合う] 「今日の授業はどうだったかな？講義が難しすぎただろうか？」といった意見交換の機会を時々設けましょう。「またいつも遅刻してくる〇〇君にどう注意したらよいだろう」

とあなたの抱える悩みや問題を正直に TA に伝えましょう。良きアシスタントとして君を必要としているというメッセージを送ることで、TA の自信と責任感を育成します。その際、積極的に TA からの意見を聞きましょう。

[セクハラ、人権問題について教える] 学生に接する TA の場合、セクハラや人権侵害が生じる可能性があります。教室の中には、多様な性や文化を持った人たちがいること。心無い一言で、大学に来られなくなるケースがあることも伝えます。

[TA の労働条件に配慮する] TA が規定の時間以上に仕事をしすぎているか、当初定められた仕事以外のことを任せていないかを時々振り返りましょう。つつい甘えて、いろいろなことを任せていませんか？TA の労働意欲を減退させますので注意しましょう。

[TA が上手に振舞った場合は誉める] 学生に上手に教えているのを見たら、授業終了後に積極的に誉めましょう。どのような行為が適切なのか、再度繰り返すべき行為は何かを知ることができます。

[学期の半ばに学生による TA の評価を行う] 共通教育の場合は、学期の半ばに中間アンケートが実施されます。それと同時に、TA に対する評価も聞きだすと良いでしょう。学生に TA を教育スタッフとして認識させるという意味でも、TA の自覚を育てるためにも、良い機会です。

[TA 同士でのつながりを作る] 複数の TA を採用している場合、TA 同士で話し合わせることも大切です。お互いに情報交換をしたり、自分を振り返る機会となります。

参考文献：『授業の道具箱』（バーバラ・グロス・デイビス 東海大学出版会 2002年 2800円 pp.465-472）

▼ 大学教員が授業をする上で役立つコツ（ティップス）を伝えます。こんなテーマについて取り上げて欲しいという方は、巻末の編集委員までご連絡ください。

センター運営委員会の動き

▼ 大学教育総合センター運営委員会の中から主要な審議、決定事項を抜粋してお伝えします。(12/1月期)

◆第14回(12月17日開催)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
(審議事項)

1 平成16年度開放科目について

松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、原案どおり了承された。

2 平成16年度入学者に対する共通教育科目の履修に当たっての注意事項について

松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき提案があり、審議した結果、字句等の修正が必要な部分については、センター長に一任することで、了承された。

3 平成16年度シラバスデータベース記入及び登録の手引きについて

山本教育システム開発部長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、最後の部分を省略することを含み、原案どおり了承された。

4 平成16年度主要事業計画等について

委員長から、資料に基づき提案があり、審議した結果、調書等への具体的な記入については、センター長へ一任することとなった。

5 共通教育賞について

委員長から、学長室連絡会での審議状況について、学生の授業評価アンケートのみでの評価ではなく、他の要素等も取り入れて再検討する方向で継続して審議することとした。

6 平成16年度英語教育センターの常勤的非常勤講師の任用について

真鍋英語教育センター長から、資料に基づき、提案があり、資格審査を行った結果、提案どおり、了承された。

また、委員長から、次回から英語教育センターで資格審査を行い、センター運営委員会で承認する方法としたい旨、提案があり、審議の結果、了承された。

7 平成16年度教育学部及び医学部入学生に適用する履修単位表の一部変更について

松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、原案どおり了承された。

◆第15回(1月14日開催)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆
(審議事項)

1 大学教育総合センターの見直しについて

委員長から、学長室連絡会での論議の状況について、報告があった。

また、松久WG長から、これまでの見直しWGでの議論の内容について報告があり、種々審議した結果、早急に学長室連絡会議の意見を打診する必要があるが、今回は継続審議とすることとした。

2 共通教育担当教員の表彰制度について

委員長から、学生からの授業アンケートだけではなく、他の項目を取り入れ、再度WGを立ち上げ、議論したい旨提案があり、種々審議した結果、一定の時間かけるべきではないか、などの意見もあり、新WGの委員は、センター長と旧WG長に一任することとなった。

(報告事項)

1 共通教育科目のオフィスアワー一覧について

松久共通教育企画・実施部長から、平成16年度から共通教育科目のオフィスアワー一覧を作成し、WEB上に公開することについて報告があった。

2 救急用空気呼吸器取扱い説明会について

津田専門員から、資料に基づき、報告があり、参加要請があった。

また、委員から、化学実験を担当する教員は、全員参加とすべきとの意見があり、案内文に追加することとなった。

3 中期目標、中期計画へのヒアリングについて

委員長から、このことについて、1月16日(金)に実施され、部課長以外にも運営委員会から、松久委員、高松委員も出席することとなった。

授業参観のお誘い

来年度より教育システム開発部では、「授業研究プロジェクト」をスタートさせます。日常的なFDの取り組みのあり方を探るための企画です。今回は、法文学部の楢林先生の共通教育の授業を公開します。すべての時間、全学の教員および事務員の参観を歓迎します。事前の連絡は必要ありません。多くの方に授業を見に来ていただき、よりよい授業のため、率直なご意見をくださいますようお願い申し上げます。

科目名：現代の法律問題

講義題目：難民問題についてのワークショップ

担当教員名：楢林建司（法文学部）

日時・場所：水曜日1限・法文講義棟101教室

目的：難民問題を主たる題材として、「弱者」とされる人々と主体的に関わるために必要な基本的素養を身につける。

- 1 ガイダンス（4月14日）
- 2 ウォーミングアップ（4月21日）
- 3 難民について見る・聞く（4月28日）
- 4 難民に関する基礎知識（5月12日）
- 5 難民問題に対する国際社会の取り組み（5月19日）
- 6 緒方貞子氏の活動（5月26日）
- 7 日本の難民受け入れ体制（6月2日）
- 8 ディベート準備（6月9日）
- 9 ディベート（6月16日）
- 10 子どもである難民の教育面でのニーズ把握（6月23日）
- 11 子どもである難民向けの教育プログラムの骨子立案（6月30日）
- 12 子どもである難民向けの教育プログラムの発表準備（7月7日）
- 13 子どもである難民向けの教育プログラムの発表〔1〕（7月14日）
- 14 子どもである難民向けの教育プログラムの発表〔2〕（7月21日）
- 15 まとめ（7月28日）

12月

- 4日 第6回愛媛大学全学シンポジウム
「教育実践シンポジウム」
- 11日 センター見直しWG 学生支援合同会議
- 11日 第18回共通教育企画委員会
- 11日 法人化のためのFDSDセミナー
- 12日 平成15年度学務系職員SDワークショップ
- 12日 法人化のためのFDSDセミナー
- 13日 FDネットワーク研究会
- 14日 //
- 17日 第14回センター運営委員会
- 19日 法人化のためのFDSDセミナー
- 25日 センター見直しWG 学生支援合同会議

1月

- 7日 第19回共通教育企画委員会
- 7日 新機軸科目説明会
- 7日 第9回教育改革推進委員会
- 9日 法人化のためのFDSDセミナー
- 14日 第15回センター運営委員会
- 20日 予算小委員会
- 23日 法人化のためのFDSDセミナー
- 26日 第20回共通教育企画委員会
- 28日 第16回センター運営委員会
- 29日 第21回共通教育企画委員会
- 30日 法人化のためのFDSDセミナー

■■■IECレポートNo10■■■

愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日：2004年2月1日

発行元：愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町3番

TEL 089-927-8904（代表）FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/index.html>

編集者：愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

中村慶子（医学部）

折本素・松久勝利・◎佐藤浩章（大学教育総合センター）

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員まで
お願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346